

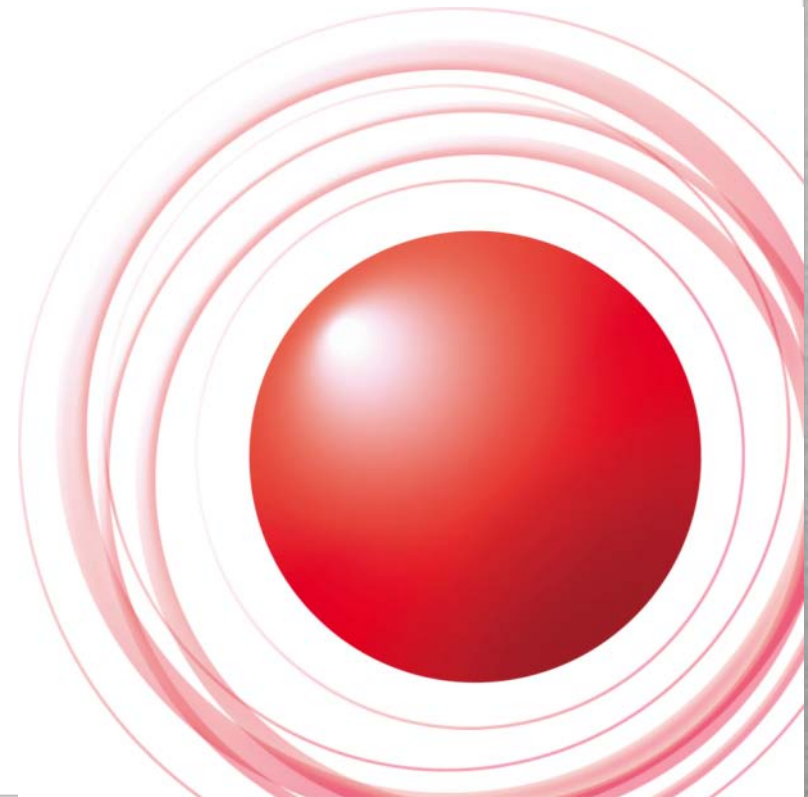
野村證券 さいたま支店 個人投資家向け会社説明会

株式会社インターネットイニシアティブ
(東証一部:3774/米国ナスダック:IIJI)

2011年11月11日

<http://www.iij.ad.jp/IR/>

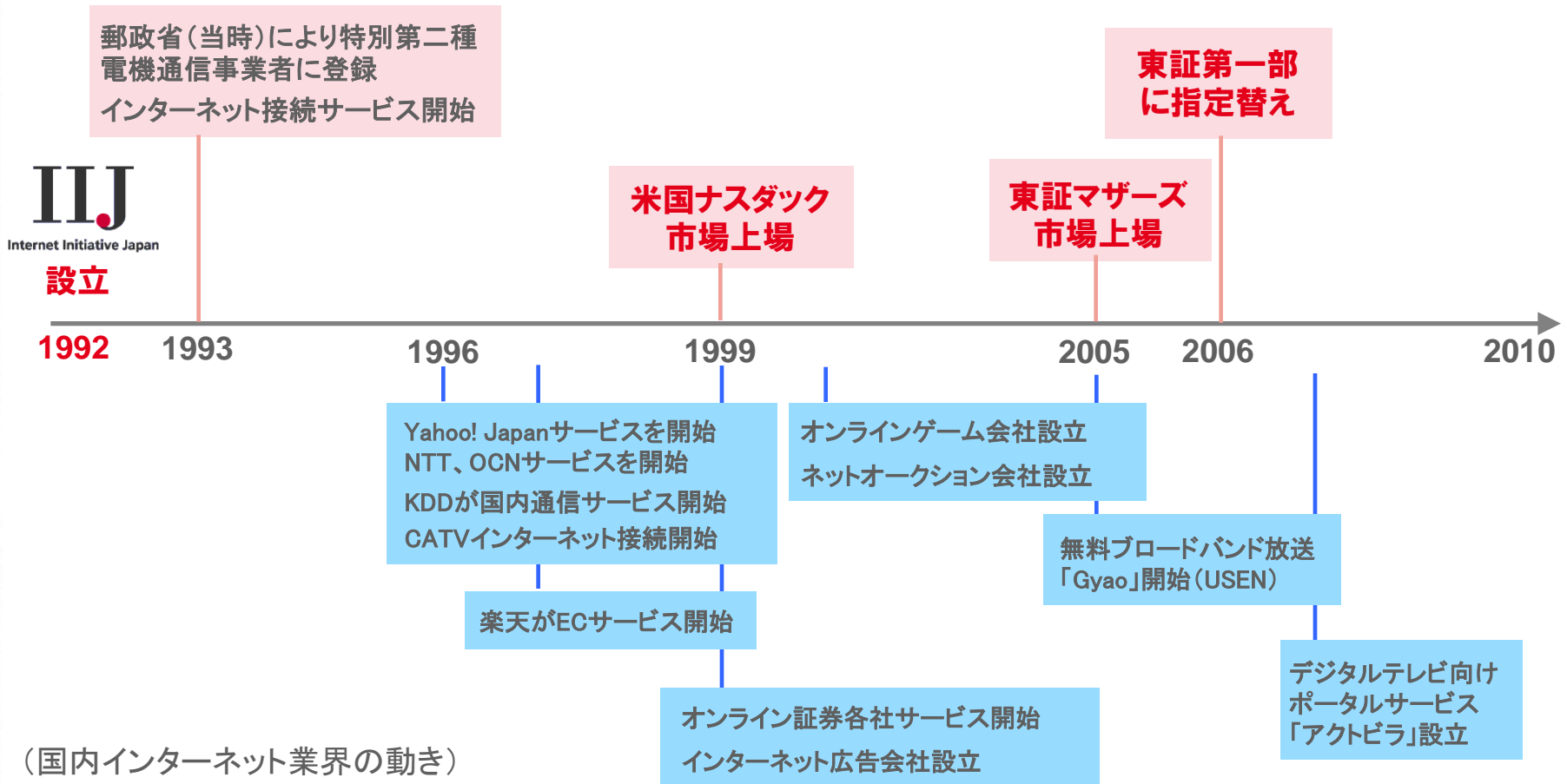
Ongoing Innovation



IIJとは

➤ 国内初の本格的商用ISP(インターネット・サービス・プロバイダー)として、1992年に設立

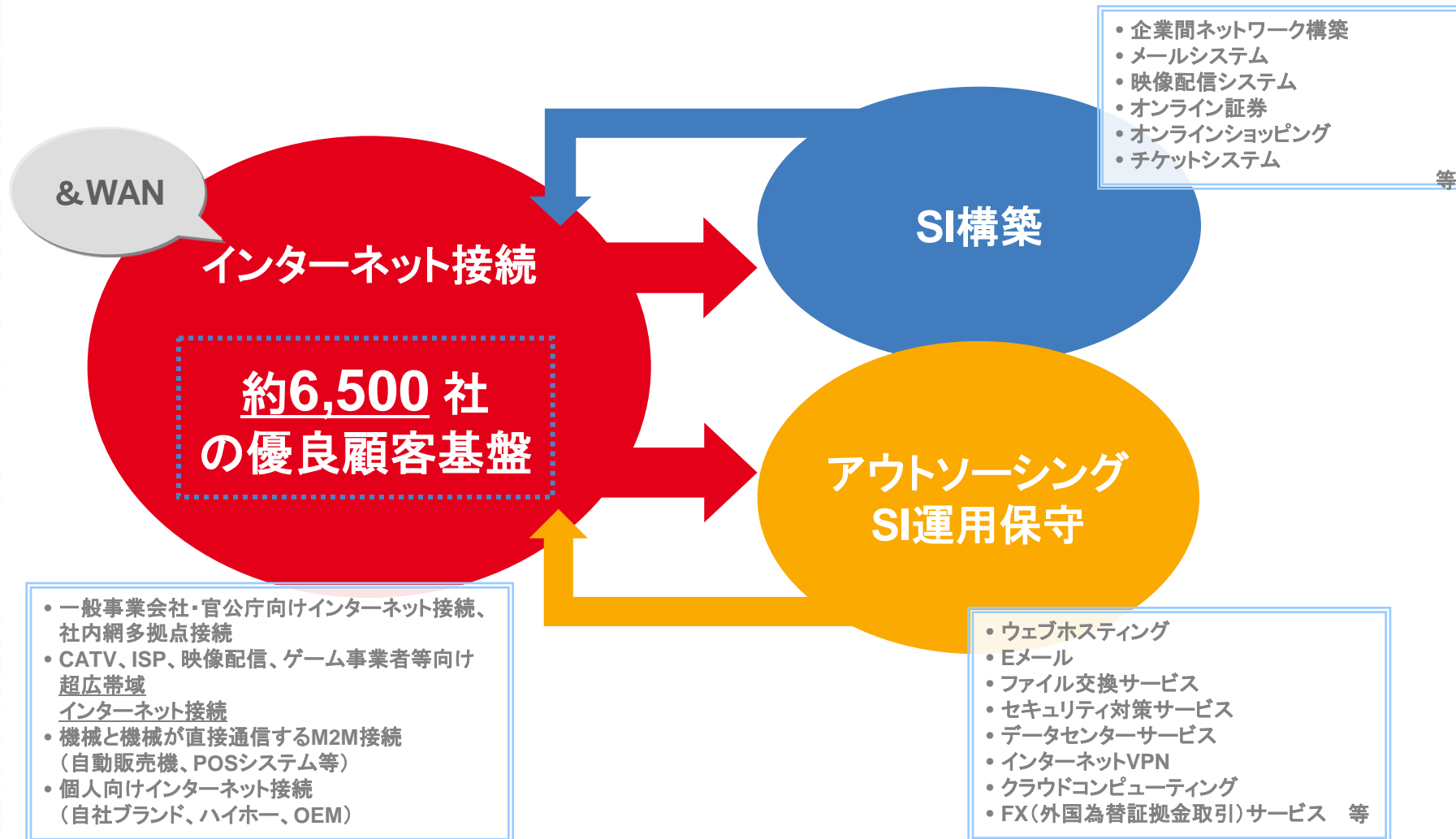
(IIJの動き)



(国内インターネット業界の動き)

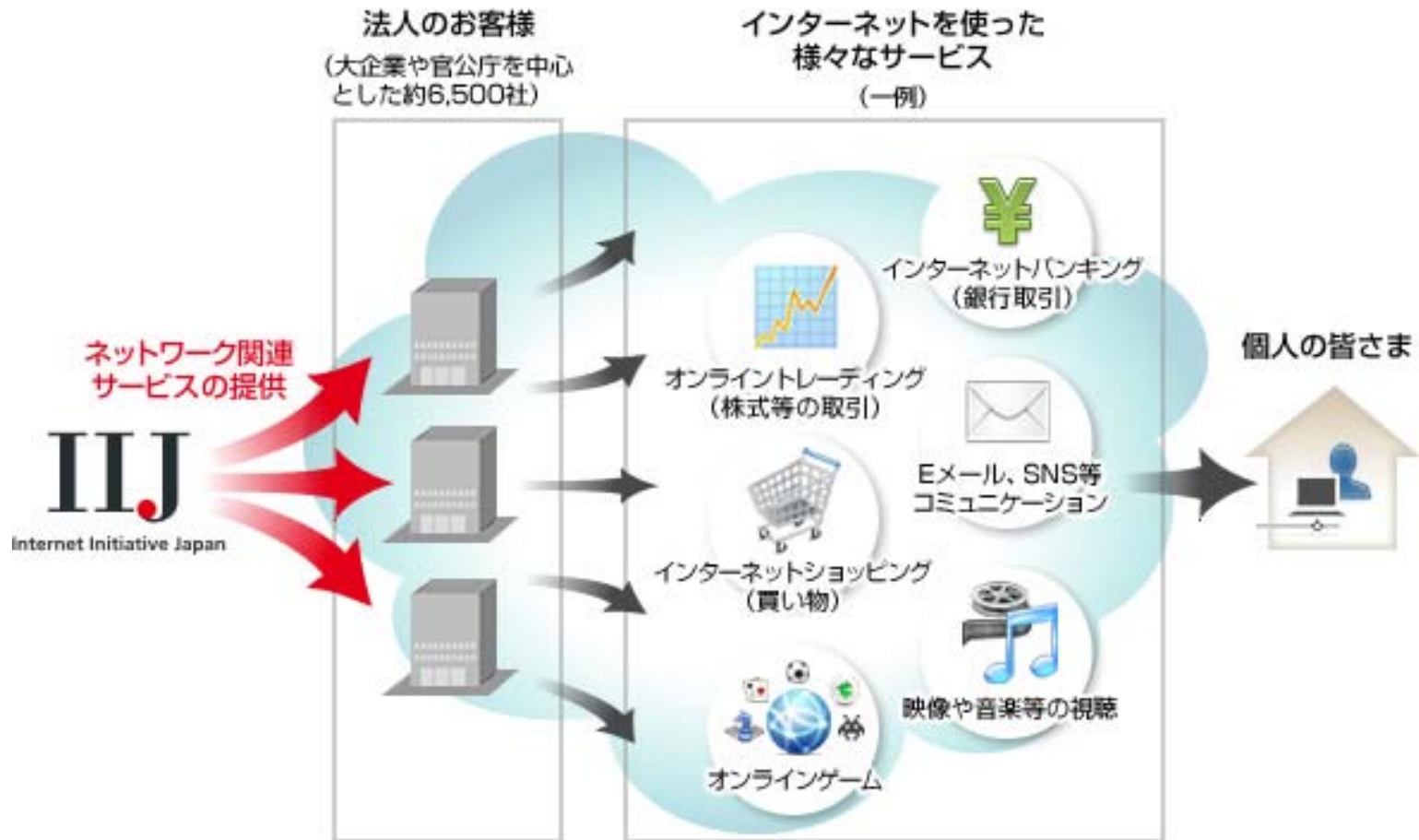
IIJの事業内容 ～接続、アウトソーシング、システム構築をトータルで提供～

▶ インターネット技術を基盤にしたサービスの複合提供



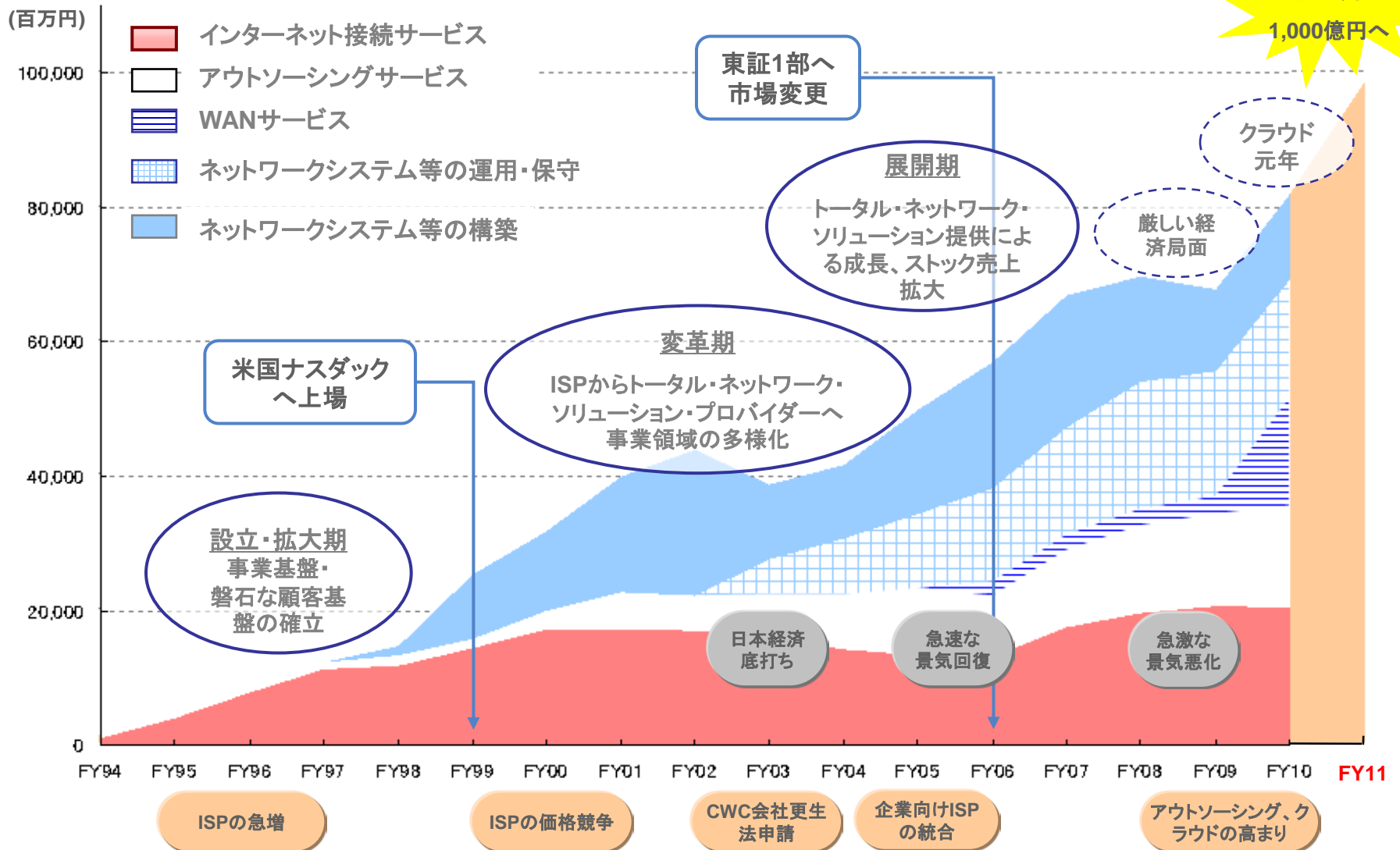
IIJの事業内容 ～法人システムインフラを支えるIIJ～

▶ インターネット上のサービスを安心・安全にご利用いただくために必要な高品質なネットワーク関連サービス、システム構築サービスを提供



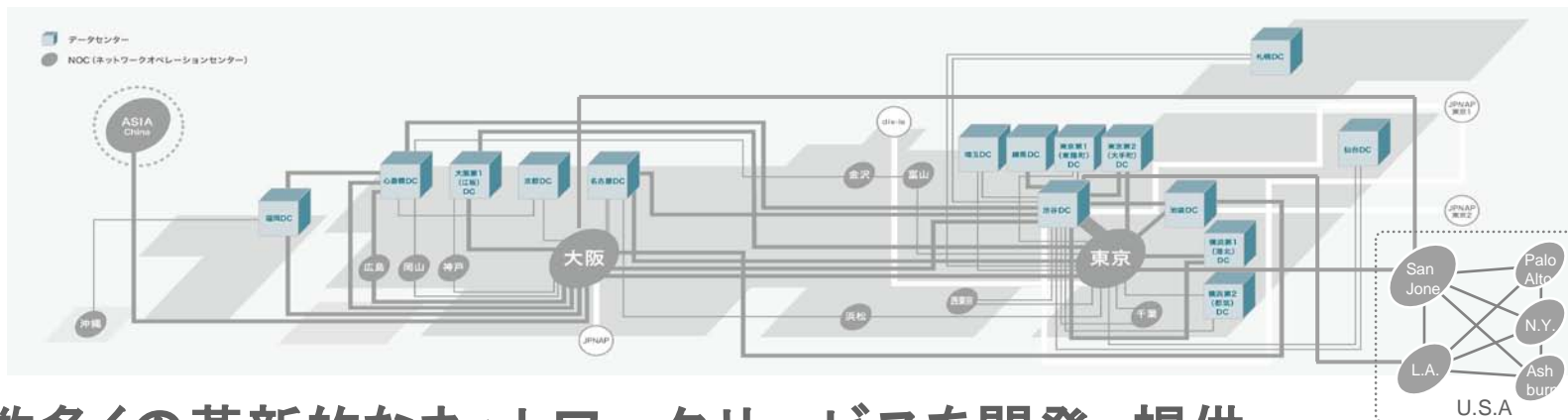
IIJ事業の売上高に見る変遷

▶ 優良な顧客基盤を元に安定的な収益基盤を拡充



IIJの強み ① インターネット関連の技術力

国内最大級のバックボーンネットワークを構築、運営



数多くの革新的なネットワークサービスを開発、提供

インターネット接続サービス、ファイアウォールサービス等、数多くの国内初サービスを開発、提供

日米両国で特許取得したIIJ独自開発技術

機器をネットワークに接続するだけで煩雑な設定が自動的に完了する世界初のネットワーク・オペレーティング・システム「SMF(SEIL Management Framework)」を開発



(IIJの独自開発ルータ「SEIL(ザイル)」)

国内外の技術関連団体に加盟、インターネット技術の発展に貢献

(加盟団体の一例)



IIJの強み ② 優良な顧客基盤

➤ 大企業や官公庁を中心とした約6,500社の優良法人顧客を保有

業界上位10社における
IIJサービスの浸透率



日本を代表する企業との
長い信頼関係



(出典)

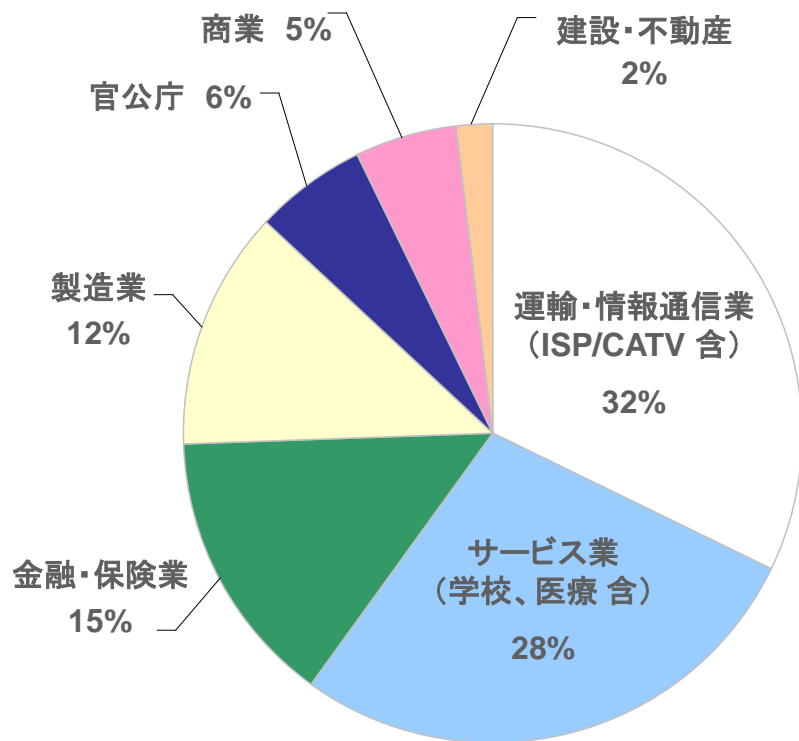
東洋経済新報社「会社四季報CD-ROM」、及び日本実業出版社「業界シェア&市場規模」等から当社作成

and more...

IIJの強み ③ 多様性のある顧客基盤

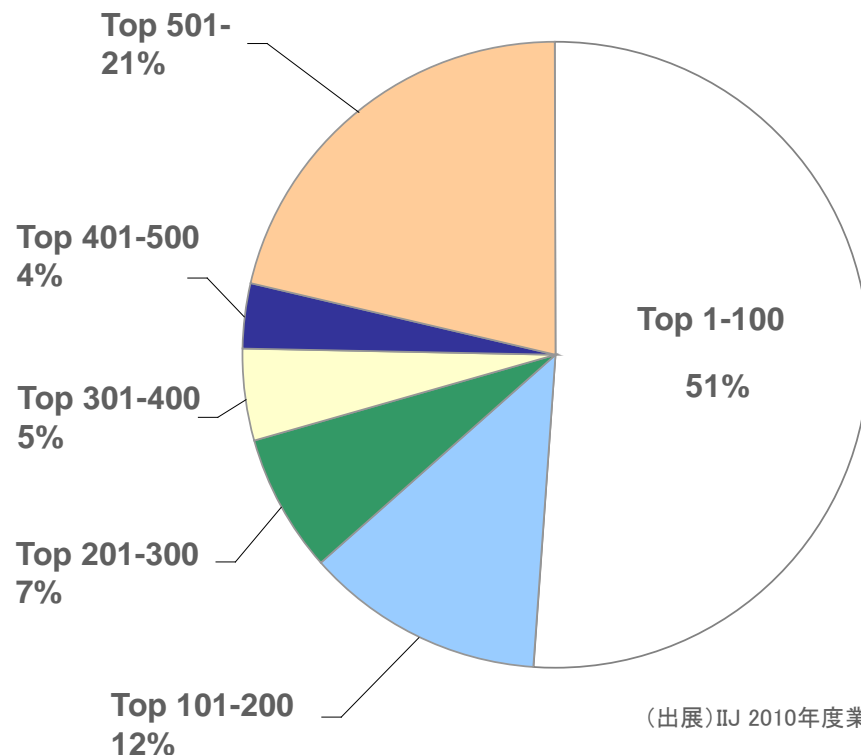
▶ 特定の業種/業界、特定顧客に依存しない売上構成

業種/業界別売上高分布



(出展) IIJ 2010年度業績

顧客別売上高分布



(出展) IIJ 2010年度業績

IIJの強み ④ 事業領域

➤ ユニークなポジショニング

競合

通信事業者

(NTTグループ・KDDI他)

競合

SI事業者

(富士通・NEC・NTTデータ他)

IIJ

Internet Initiative Japan

ネットワークサービス

- インターネット接続
- WANサービス
- アウトソーシング

システムインテグレーション

- システム構築
- システム運用保守

新事業領域

クラウド
コンピューティング

サービス導入事例



導入事例① 松竹株式会社

➤ ネットワーク刷新で大幅なコスト削減と品質向上を実現

演劇、映像、不動産を3本柱に国内各地で事業を展開する松竹株式会社。

IP-VPNで利用していたアクセス回線は狭帯域だったため、ファイルサーバなどのレスポンスが遅く、各拠点からどうにかしてほしいという声が上がっていた。そこで、安価なブロードバンドサービスをアクセス回線に利用しながら、信頼性の高いネットワークサービスを探していた松竹が採用したのがIIJのネットワークサービスだ。

同社では、高速・広帯域の社内ネットワークを構築するとともに、通信コストの削減と運用管理の負荷軽減を実現。

拠点の重要度に応じてアクセス回線を選択

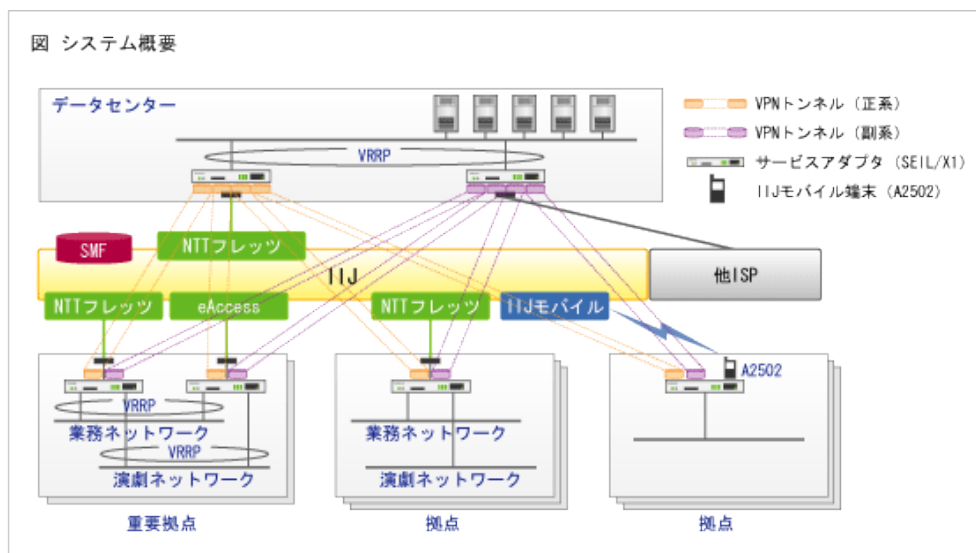
拠点の重要度に応じて回線や機器を冗長化することで社内ネットワークの信頼性を高めた

IIJ SMF sxサービス

ランニングコストの削減とともに、高速で信頼性の高いインターネットVPNを実現。ネットワークに機器を接続するだけで、自動的に管理サーバから設定情報を取得し、拠点の追加や変更に対応

運用管理等のコストを約40%削減

従前は機械の設定・保守のため、都度、各拠点に向いて作業を実施していたが、「IIJ SMF sxサービス」の採用で、拠点に向かない管理体制を実現。



導入事例② カルビー株式会社

➤ ネットワークのセキュリティ強化と運用コスト削減を実現

カルビーは、「おいしさと楽しさを創造して、人々の健やかなくらしに貢献する」という企業理念のもと、自然の恵みを生かした商品やサービスを国内・海外で提供。

同社の事業を支えるのがITであり、同社執行役員 梶ヶ野氏はITが果たす3つの役割について、「ビジネスをドライブするIT、コスト削減に貢献するIT、そして事業継続を担保するITです」と語る。そして梶ヶ野氏は「ITの重要性が増すなかで、ITを構築、運用するためには高度な技術力や最新の知識が求められ、これを社内で維持し続けるより外部の専門家に任せようが技術・コストの両面で得策だと判断した」と話す。

IIJセキュアMXサービス

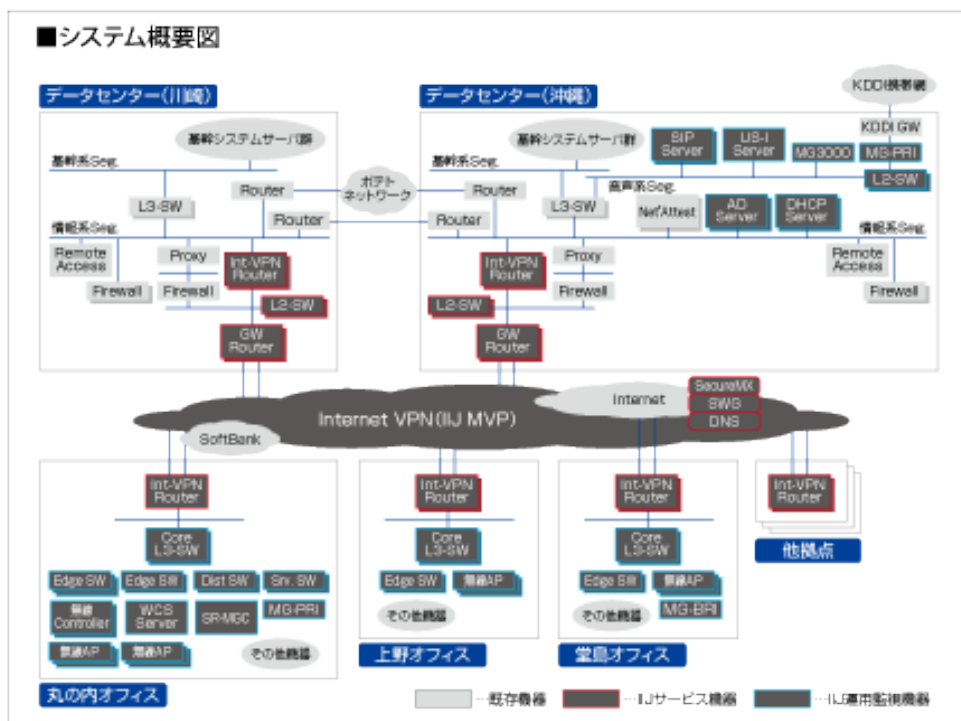
迷惑メール対策やウイルス対策など、安全なメールの運用を支援

IIJセキュアWebゲートウェイサービス

業務外のサイトへのアクセスを制限するWebフィルタリング、Web経由のウイルス検知、ログ保管/ダウンロードなど、Webセキュリティを最適化する機能を装備

インターネットVPNサービス

事業継続の観点から、回線の完全二重化やノンストップの運用・監視体制など、信頼性の高い全社ネットワークを構築

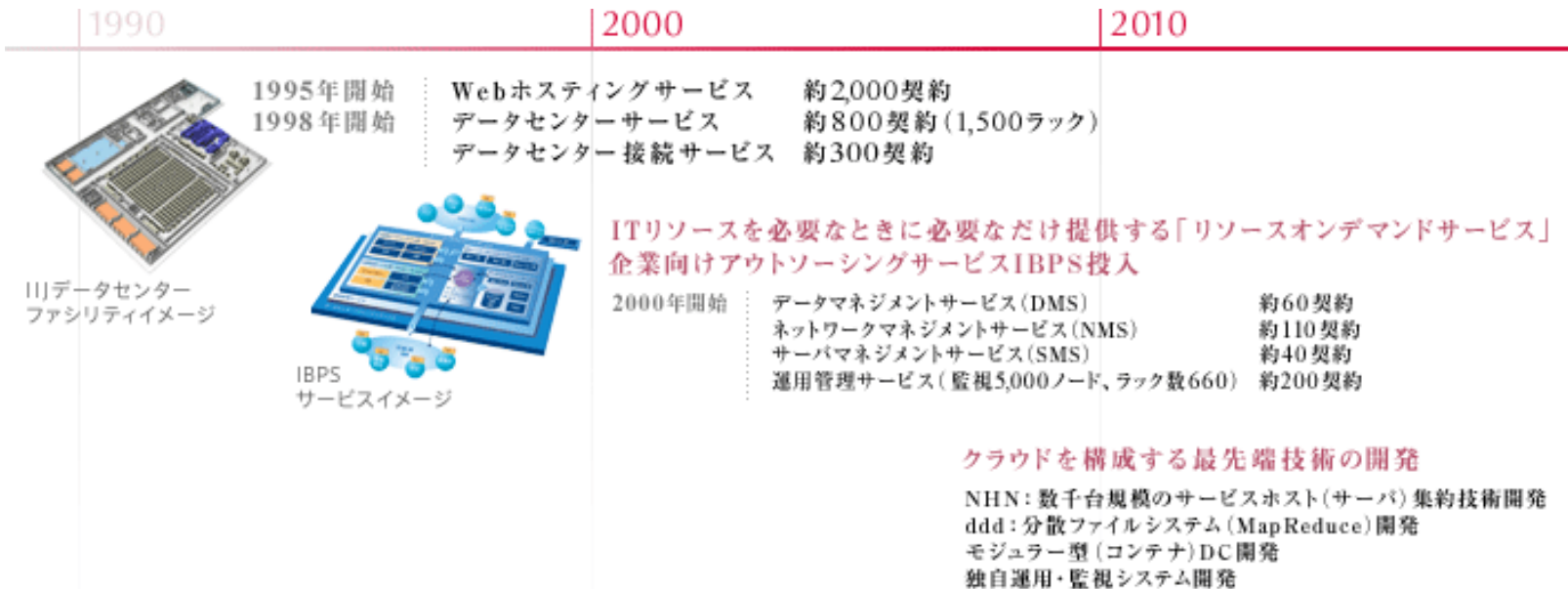


更なる事業成長に向けて

- ①クラウドコンピューティングサービスへの取り組み
- ②海外事業展開

IIJのクラウドコンピューティングサービスへの取り組み

➤ IIJブランドのクラウドサービス「IIJ GIO(ジオ)」提供開始



— 2009年 IIJ GIO発表

IIJの優位性

- ・10年以上にわたり共通設備上でお客様向けサービスを運用してきた実績
- ・クラウドサービスで使うネットワーク等の設備を従前から保有 (=既存事業の延長線上)
- ・6,500社を超える有力顧客基盤

➡ クラウド先駆者メリットを享受できるポジショニング

クラウドコンピューティングによる変化

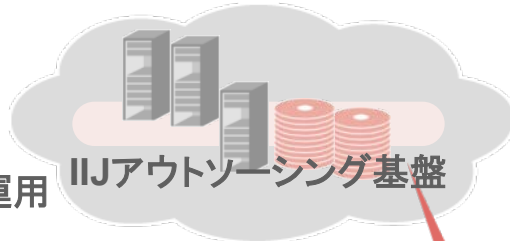
従来

IIJ

Internet Initiative Japan

IIJの共通基盤上で
お客様向けサービスを運用

IIJアウトソーシング基盤



従来の個別システム構築

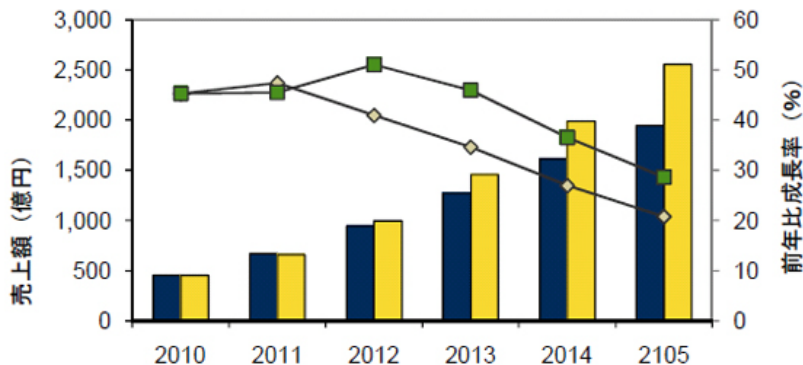


お客様専用のシステムを
お客様毎に運用

将来

社内システムのクラウド化が進行

クラウド市場規模予想 (IDC)



- 市場予測 (2011年3月調査)
- 市場予測 (2011年6月調査)
- ◇ 前年比成長率 (2011年3月調査)
- 前年比成長率 (2011年6月調査)

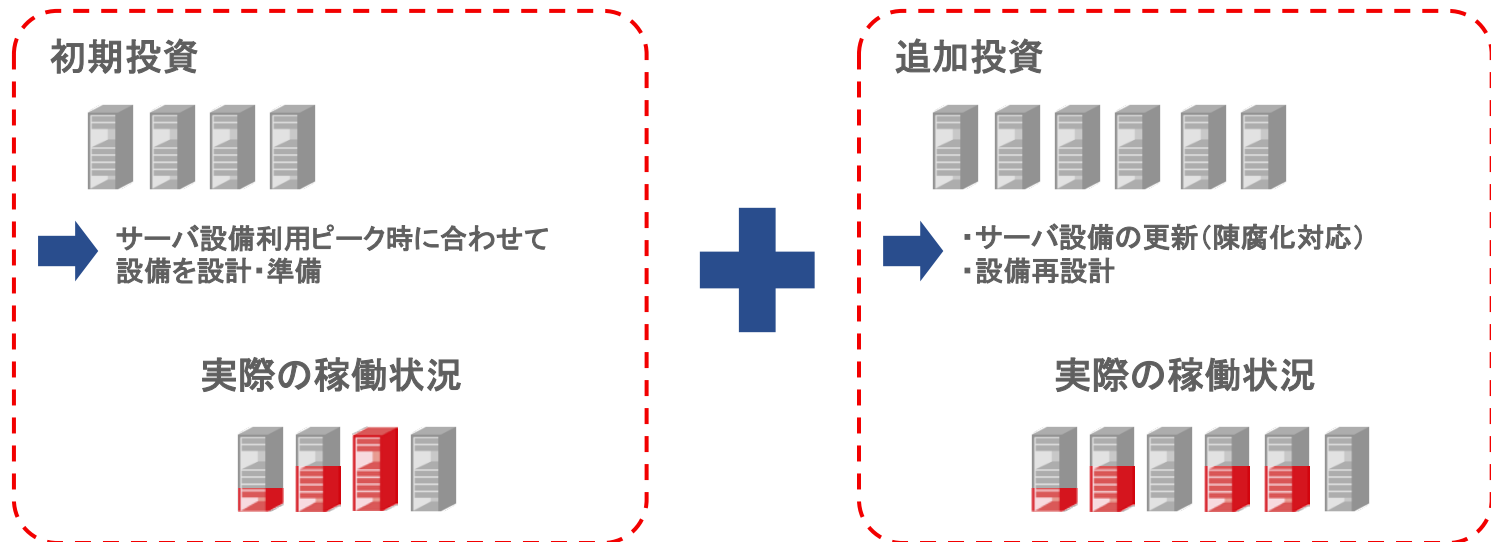
2015年の市場規模: 2557億円と予測



クラウドコンピューティングによる変化

➤ IT資産の有効活用

サーバ設備などを自社構築する場合



クラウドサービスの利用

- 必要な容量分だけ借りて、その分の対価を利用料金として支払う
 - ・容量が足りなくなったら借りる分を増やす(必要なくなったら減らす)
 - ・サーバ設備の陳腐化などはサービス事業者が対応。
- 利用者は一切対応不要



クラウドサービス「IIJ GIO」事業の進捗

IIJ GIO

➤ 売上高、導入案件数ともに順調に拡大

導入案件数 : 830案件超 (2011年9月末)
 単月GIO売上高: 月額2.5億円強(2011年9月)
 FY2010売上高 : 約6億円
 FY2011売上高計画 : 30億円超

➤ クラウドサービスの継続拡大

- ・大手法人の利用増加
- ・Web及びメール基盤における利用多数
- ・ソーシャルアプリケーションプロバイダーによる大規模利用
- ・月額1百万円を超える取引増加

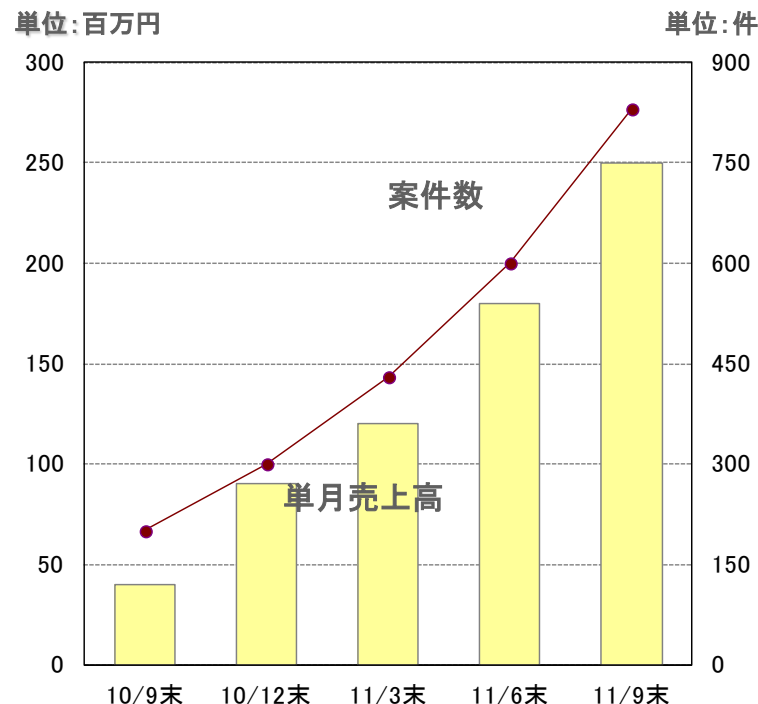
➤ IIJクラウドサービスに対する高い評価



「第3回クラウドランキング」 3部門でベストサービスを獲得

- ・ベストサービスクラウド データセンター部門
- ・ベストサービス 汎用情報系SaaS部門
- ・ベストサービス 特定業種業務向けSaaS部門

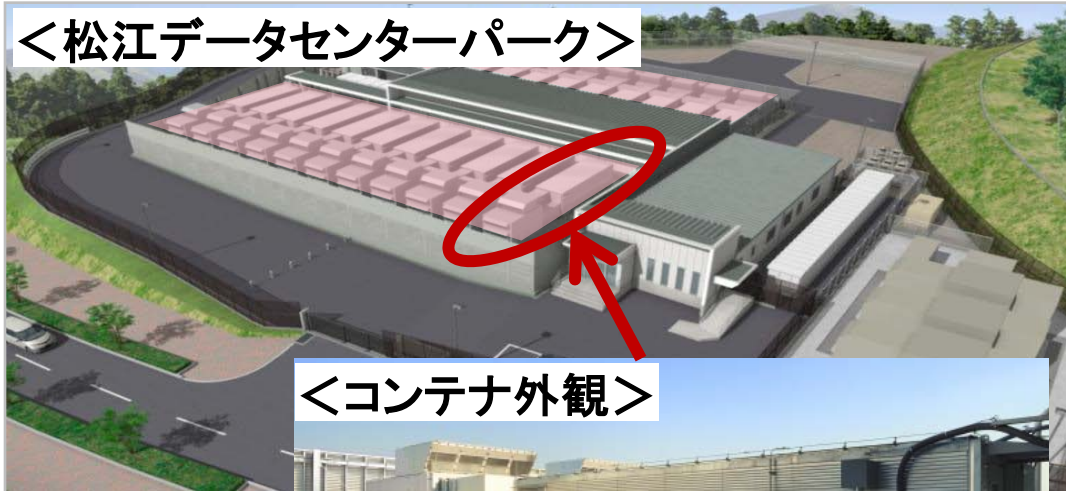
IIJ GIO単月売上高及び案件数の推移



クラウド時代を見据えた国内初のコンテナ型データセンター

- 外気冷却による大幅な電力削減、CO2排出量削減
- 数千台のサーバ機器を搭載したコンテナを車両にて輸送可能

<松江データセンターパーク>



<コンテナ外観>



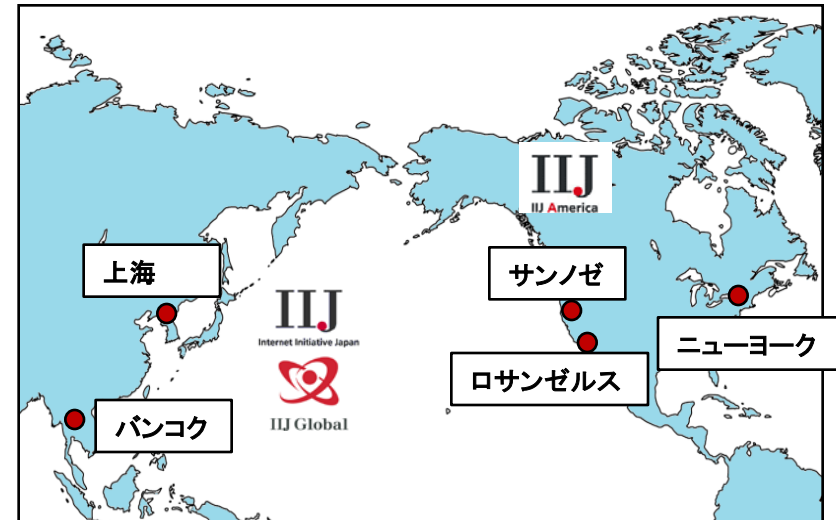
<コンテナ内部>



大量の機器設備をタイムリーかつ低コストで拡張することが求められるクラウド時代に最適なデータセンター

IIJグループの海外戦略

- ◆ IIJ America Inc. (100%子会社、96年設立)にて米国バックボーンネットワーク運営、在米日系企業向けにネットワークサービス提供中
- ◆ 国内大口顧客の米国プライベートクラウドの構築・運用案件遂行(1H11)
- ◆ 海外新拠点の展開
 - IIJグローバルにて、タイ(バンコク)に駐在員事務所開設、中国(上海)に現地法人設立予定(4Q11)
- ◆ 国際サービスの拡充、体制整備
 - 国際WANサービス・国際インターネットVPNサービス提供開始
 - マルチリンガル(日・英・中)ヘルプデスク提供開始
 - データセンターサービス、セキュリティ関連等のアウトソーシングサービスを組合せ提供
 - 現地キャリア、Sler等とパートナー提携強化、クラウドサービス国際展開を予定



日本企業の海外展開が活発化する中、海外でのネットワークサービスへのニーズが増大。

今後もアジア中心に順次拠点を設置し、お客様のご要望にワンストップで対応する体制を整え、中長期で海外事業を事業の柱としていくことを展望。

業績概要と成長戦略

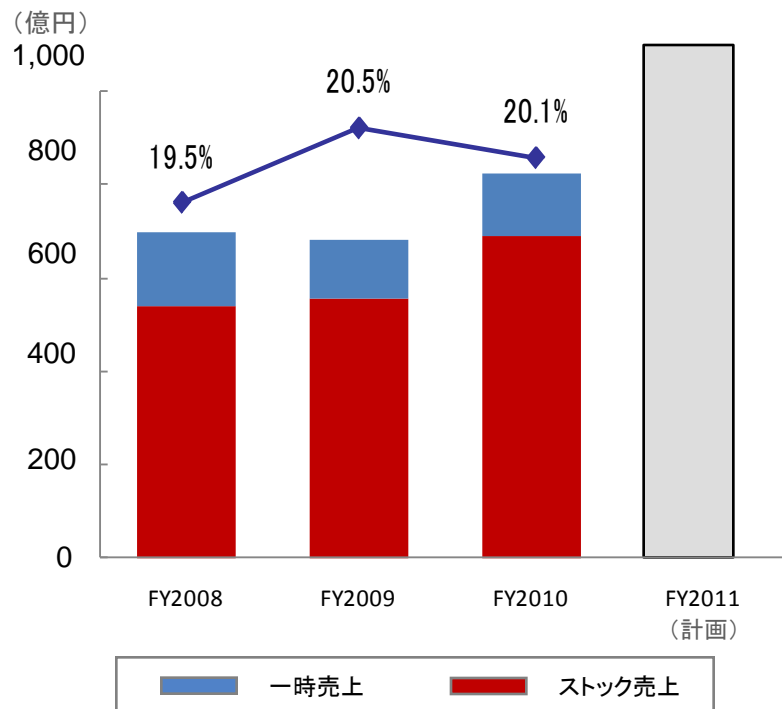
2012年3月期第2四半期 連結実績サマリー

単位:億円

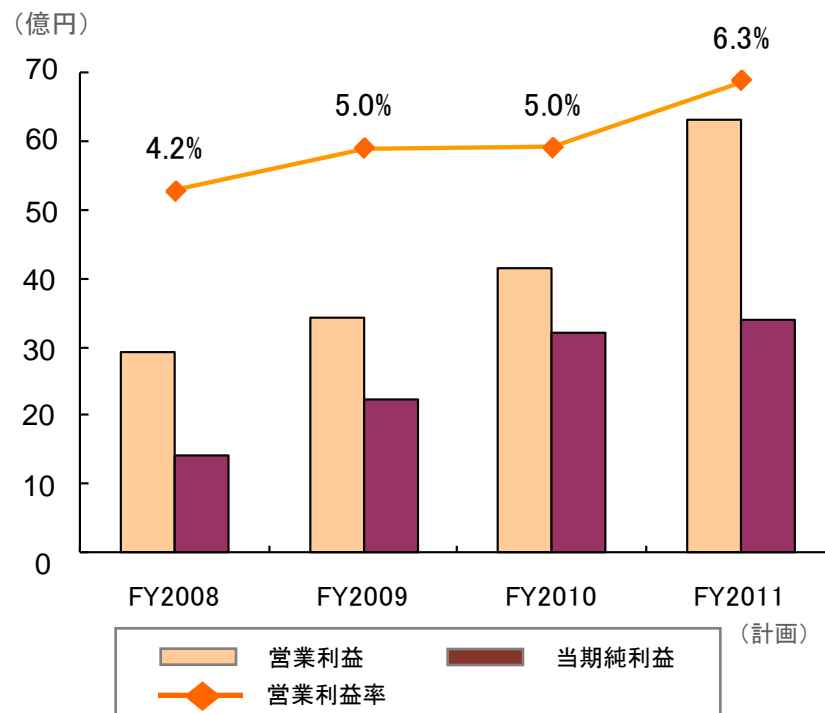
	売上比	売上比	前年同期比	売上比	売上比
	1H11 (11/4~11/9)	1H10 (10/4~10/9)		1H11 修正後見通し (11/4~11/9)	1H11 期初見通し (11/4~11/9)
営業収益 (売上高)	472.1	342.7	37.7%	472.0	475.0
売上原価	80.4% 379.7	80.0% 274.3	38.4%	—	—
売上総利益	19.6% 92.4	20.0% 68.4	35.0%	—	—
販売管理費等	14.4% 67.9	16.5% 56.4	20.3%	—	—
営業利益	5.2% 24.5	3.5% 12.0	103.8%	5.1% 24.0	4.2% 20.0
税引前 四半期純利益	4.9% 22.9	2.9% 10.1	127.7%	4.7% 22.0	3.6% 17.0
当社株主に 帰属する 四半期純利益	2.9% 13.6	2.5% 8.6	58.4%	2.9% 13.5	2.1% 10.0

業績推移とFY2011見通し (2011/5/13発表)

売上高／売上総利益率



営業利益／当期純利益



(億円)	FY2008	FY2009	FY2010	FY2011(計画)	前年度比
売上高	697.3	680.1	824.2	1,000.0	21.3%
営業利益	29.2	34.1	41.4	63.0	52.1%
当期純利益	14.2	22.3	32.1	34.0	6.1%

IIJの中長期成長戦略

顧客囲い込み戦略

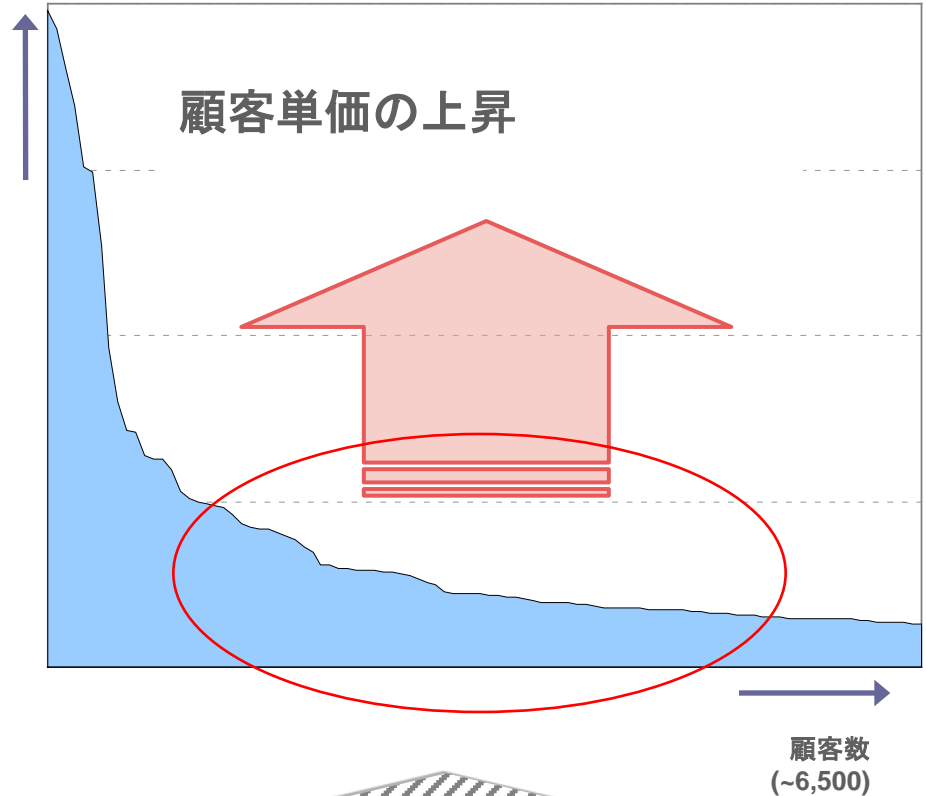
クロスセリング戦略

信頼性の高い、安定した高品質サービスの提供

新サービスの継続投入

ストック売上積上げによる売上高拡大と利益成長

売上高
(百万円)



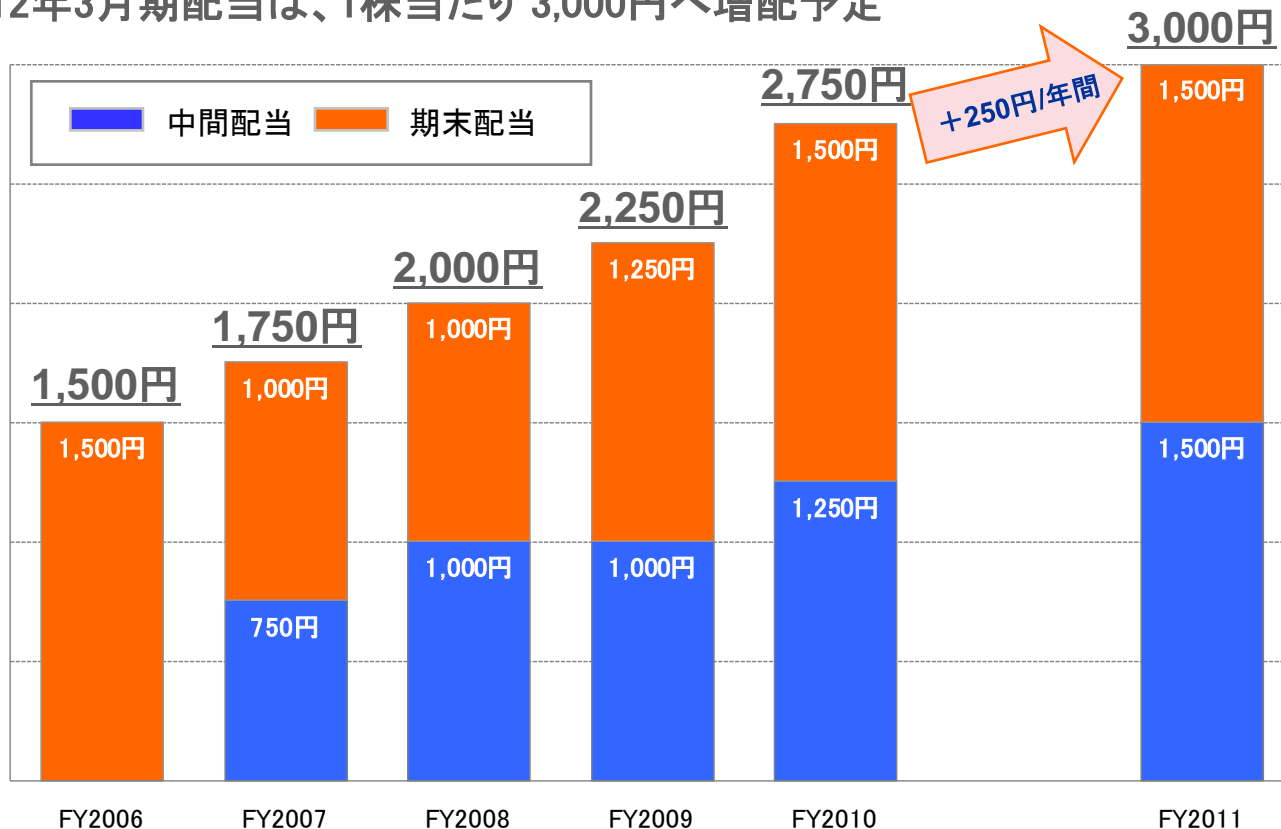
- ・ アウトソーシング、クラウドニーズの高まり
- ・ 中長期的に必要な不可欠なIT投資需要

參考資料

ご参考：株主還元

➤ 継続増配中

2012年3月期配当は、1株当たり 3,000円へ増配予定



事業成長に必要な内部留保に配慮しつつ、継続的かつ安定的な配当に努めてまいります。

ご参考: 株価推移 (東証1部 証券コード:3774)

* 売買単位:1株

Internet Initiative Japan Inc.
2011/11/9



(C) 2011 Yahoo Japan Corporation.

<http://stocks.finance.yahoo.co.jp>

	2009/3末	2009/9末	2010/3末	2010/9末	2011/3末	2011/6末	2011/10末
終値	104,800	209,100	206,800	220,700	249,700	31,0000	287,600











ご参考：連結バランスシートの状況

単位：百万円

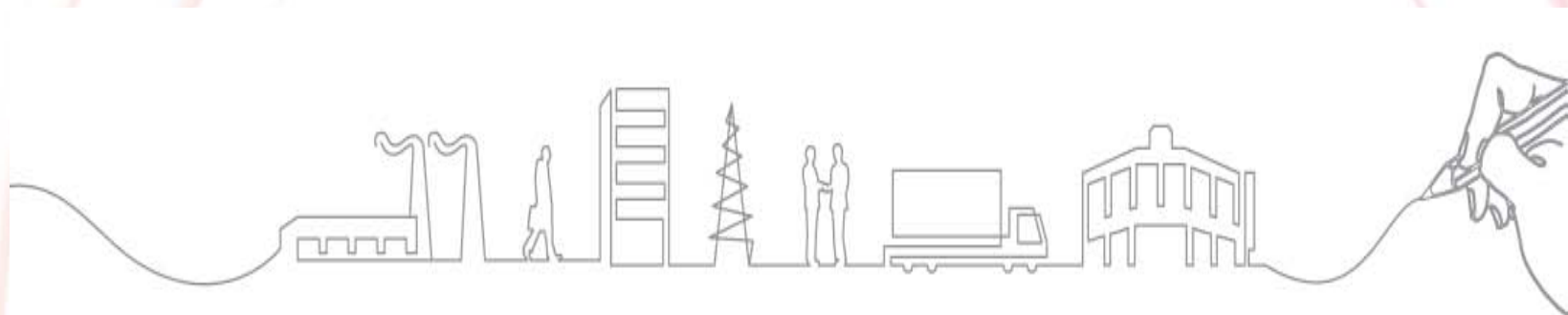
	2011年3月末	2011年9月末	前期末比
現金及び現金同等物	13,314	10,974	△ 2,339
売掛金	16,431	14,453	△ 1,979
たな卸資産	601	662	+60
前払費用	1,680	2,386	+706
その他投資	2,794	2,870	+76
有形固定資産	16,481	18,715	+2,234
のれん及び その他無形固定資産	11,843	11,536	△ 307
買掛金及び未払金	13,574	8,678	△ 4,896
銀行借入金(短期・長期)	13,430	11,970	△ 1,460
欠損金	△14,023	△12,966	+1,057
その他包括損失累計額	△85	△63	+22
当社株主に帰属する 資本合計	29,652	30,748	+1,096
総資産	71,473	69,102	△ 2,371

ご参考: グループ会社一覧

(2011年10月末現在)

	社名	出資 比率	主な事業内容
連結 子会社	 (株) ネットケア	100%	ネットワークシステムの運用監視、カスタマーサポート、コールセンター等
	 ネットチャート(株)		LAN関連を中心としたネットワーク構築等
	 IIJ America Inc.		米国でのインターネットバックボーン網の運用、インターネット接続サービスの提供等
	 (株) ハイホー		個人向けISP事業等
	 (株) IIJイノベーションインスティテュート		インターネット技術開発およびインキュベーション事業等
	 (株) IIJグローバルソリューションズ		WANサービス等国内ネットワークアウトソーシング関連および国際ネットワーク関連サービスの提供
	 (株) トラストネットワークス	77.8%	ATM・ネットワークの運営等
持分法 適用 関連会社	 インターネットマルチフィード(株)	32%	相互接続ポイントの運営、コンテンツ配信等
	 (株) インターネットレボリューション	30%	インターネットポータルサイトの運営等
	 (株) トリニティ	45%	ポイント管理システムの提供等 (従来 of タイヘイコンピュータ(株)より社名変更)

誰もが安全に、信頼できる確実なコミュニケーションインフラへ



IIJ

Internet Initiative Japan

日本の商用インターネットサービスを切り拓きしてきた私たちIIJは、誰もが「安心・安全」に利用できる信頼性のあるインターネットインフラを提供するために、技術開発を積極的にリードしていきます

※ 事業等のリスク

本資料には、1995年米国民事訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)の「セーフハーバー」規定に定義する「将来性の見通しに関する記述(forward looking statements)」に該当する情報が記載されています。本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。現時点において想定しうる当社グループの主なリスク及び不確実性として、

- 1) 国内景気の低迷、経済情勢の変化等による企業のシステム投資及び支出意欲の低下、
- 2) サービスの中断等による当社グループのサービスへの信頼性の低下及び事業機会の逸失、
- 3) ネットワーク関連費用、外注費、人件費等、費用規模の想定を超える増加、
- 4) 競合他社との競争及び価格競争の進展、
- 5) 投資有価証券及び営業権等ののれん資産の価値変動及び実現、
- 6) 税効果会計による法人税等調整額の規模及び実現時期の変動

等がありますが、これら及びその他のリスク及び不確実性については、当社グループまたは当社が、1934年米国証券取引法(Securities Exchange Act of 1934)に基づき米国証券取引委員会に届出し開示している英文年次報告書(Form 20-F)及びその他の書類をご参照下さい。

※ お問い合わせ先

株式会社インターネットイニシアティブ (財務部)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

TEL: 03-5259-6500 FAX: 03-5259-6311 URL: <http://www.iij.ad.jp/IR> E-Mail: ir@iij.ad.jp